

語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文について

近藤 研至*

About *i*-dropped Type of Adjective Predicate Sentences by One-Syllable Stem Adjectives

Kenji KONDO

要旨 「濃い」「酸い」「よい」「いい」「ない」の語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文について考察した。イ落ち型形容詞文には、文型1（「B！」）・文型2（「X、B！」）・文型3-1（「X、A（観点）、B！」）・文型3-2（「X、A（対象）、B！」）・文型4（「A、B！」）の5つの文型がある。語幹1音節形容詞はこのイ落ち型形容詞文の文型のすべてに許可されるわけではない。文型1には「濃い」「酸い」が許可され、文型2には「濃い」「酸い」「よい」が許可され、文型3-1には「濃い」が許可され、文型3-2には「濃い」「酸い」「ない」「よい」が許可され、文型4には「濃い」「酸い」「ない」「よい」が許可される。なお、「いい」はイ落ち型形容詞文では許可されない。文型3-2、文型4は「A、B！」という形態を有し、この形態であることで「1音節の語幹であることを回避する」ことが生じ、それによって語幹1音節形容詞はイ落ち型形容詞文に現れることが許可される。また、否定辞「ない」が「イ落ち型」をとることを許可されることは連続的である。

キーワード：語幹1音節形容詞、イ落ち型形容詞文、文型

0 はじめに

形容詞文には

- (1) あつ！（熱い）／うま！（うまい）／
こわ！（怖い）／うざ！（うざい）

のような形式の表現がある。こうした表現は古くからあるが、これらについて積極的に記述されたのは、富樫（2006）以降であると言ってよい。中でも非常に丁寧にこの表現を扱ったとして評価されるものに今野（2012）がある。今野（2012）はこの表現を「イ落ち構文」と呼び、「イ落ち構文は、話者が、眼前の事態や対象に対し、瞬間的現在時の直感的な感覚や判断を表出する私的表現行為専門の構文である」とする。

この今野の説明は、それ以後、この表現の性

質記述としてほぼ共有されてきた。しかし近藤（2014）・（2019）は、

(2) あつ！／うまい！／こわい！／うざい！
のような例を取り上げ、今野による説明は、これらの表現形式にも意味・統語上の性質として共通していると指摘した。この指摘は、形容詞文には「表出用法」があり、(1)のような形式は、独立したものではなく、形容詞文の一つであるといった視座から説明したものとなる。その視座から近藤（2019）では、この表現を「イ落ち型表出用法」（以下、小論では「イ落ち型形容詞文」とする）と呼んだ¹。

富樫（2006）（また今野（2012））は、「濃い」「よい」のような語幹1音節形容詞はイ落ち型の用法を持たないと指摘している。しかし近年、

- (3) こ！（濃い）

* こんどう けんじ 文教大学教育学部学校教育課程国語専修

のように、語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文を見ることができる。富樫が記述した時から15年以上を経過している中で、当初なかったこのような表現が許可されるようになってきたのかもしれない。

小論では、これまで「ない」とされてきて、積極的に取り上げられてこなかった、語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文について取り上げる。

1 イ落ち型形容詞文について

1-1 形容詞文の文型タイプ

小論では形容詞述語文のタイプは、新屋(2009)に拠る。新屋(2009)は形容詞述語の意味機能を「性質規定」と「状態叙述」と「評価」に分ける。「性質規定」は「時間に左右されない事物の恒常的性質を表す」とされ、「犬はかわいい」や「娘は背が高い」などの「事物の内在的性質」と、「私の家は駅に近い」などの「事物の外在的性質」があるとされる。また「状態叙述」は「時間的、空間的に局在する事物(表現主体の内面を含む)の状態を表す」とされ、「風が強い」や「ビールがおいしい」などの「事物の客観的状态」と、「タンスの角で足の小指をぶつけたので、痛い」や「父が死んでしまったので、さみしい」などの「話し手の感情・感覚」があるとされる。「評価」は「自他の行動や事象に対する話し手の評価を表す」とされ、「この選択はまずい」などがあるとされる。

形容詞文は、指示対象Xが主題となり、それについて解説する要素による主題解説構造を持つ。この構造は次に示す3つの文型において具現化される。

(4) 形容詞文の文型：

文型1：XハBイ²

文型2：XハAガBイ

文型3：AガBイ

新屋(2009)の意味機能の整理に従って、それぞれがこの文型にどのように現れるかについて整理してみよう。

1-1-1 文型1について

次の(5)は性質規程、(6)は状態叙述、(7)は評価である。性質規程と評価の場合は、Xという主題について、Bイを以てその性質、評価が述定される。状態叙述の場合は、その状態を有する主体がXで示され、Bイを以てその状態(感情・感覚を含む)がさし出される。

(5) この部屋は汚い。 / このロープは長い。
 / このぬいぐるみはかわいい。

(6) 彼はやさしい。 / 僕は寂しい。

(7) ハンバーグはおいしい。 /
この選択はまずい。

なお、状態叙述にかかわる感覚形容詞の場合は、その感覚の出現箇所が必要であり、文型1で表現されると曖昧な表現になってしまう。

(8) ???僕は痛い。 / ???私がかゆい。

また、新屋が「事物の客観的状态」と呼んでいる表現は、「風が強い」「ビールがおいしい」のような文型で表現され、文型1はとらない。これらの文は「事物の客観的状态」と説明されているが、これは「風」と「ビール」の状態について叙述しているわけではないだろう。「ここ」などの、ある具体的な場所の状態として「風が強い」、今、私にとって「ビールがおいしい」のであり、「この風」「このビール」の状態を叙述しているわけではない。そのために、(4)に掲げた形容詞文の文型に従えば、文型3として実現していると言える。

1-1-2 文型2について

性質規程の場合、次のaとbに見られるように、「AガBイ」におけるAとBイとの関係には二種類ある。

(9) a この蛇は色が白い。

b この家は壁が白い。

(10) a このロープは長さが長い。

b ゴウは鼻が長い。

aは、「白い」「長い」が、「色」「長さ」という観点において成立しているといったように、Aにお

いて、どのような観点における形容かということ
を明示している。それに対してbは、「白い」「長
い」という性質を持つ対象はどこかといったよう
に、Aにおいて、その属性（形容詞）を持つ対
象が明示されている。前者のAを「観点」、後
者のAを「対象」としよう。aは「A（観点）ガB
イ」で、その文型タイプを文型2-1としよう。ま
た、bは「A（対象）ガBイ」で、その文型タイ
プを文型2-2としよう。

それに対して状態叙述は少し異なった振る舞
いをする。1-1-1で触れたが、「感覚形容詞」の場
合は、

(11) a 私は {足が痛い・お腹が痛い}.

b 私は {頭がかゆい・手がかゆい}.

のように、((8)では表現として満たされない
が、(11)のように)その感覚が生じている箇所
を明示することが多く、文型2-2をとることが多
い。もちろん感覚を表現する形容詞文としてはB
イに程度を表す形容詞が立ち、

(12) a 私の足は痛みが激しい.

b 私は足の痛みが甚だしい.

のように、X位置に部位等が置かれる場合(a)
にも、A位置にその部位を含んだ形で明示される
場合(b)にも、文型2-1も許可される。

それに対して感情形容詞は

(13) a 私は悲しい. /

??? 私は心が悲しい.

b 私は楽しい. /

??? 私は気持ちが楽しい.

のように(文型2ではなく)文型1をとることが
多い。もちろん、その感情の対象をさし出して、

(14) a 私は中学校時代が懐かしい.

b 私は(デートをしている)今、この
時間が楽しい.

と文型2-2で述べることもある。しかしこの場合
は感情的な叙述というよりも、Bイは、「僕(私)
にとって」の「中学時代」、「今、この時間」の属
性であるという側面も少し加わっている。

評価の場合は、文型1以外であると、その評価

対象をA位置に明示する必要がある。

(15) ?a この店は味がおいしい.

b この店はハンバーグがおいしい.

aのような文型2-1は少し座りが悪いが、bのよ
うな文型2-2は座りがよい。また「いい」という
評価の場合は、文型2においては、

(16) 君の作品は構図がいい.

のように文型2-2のみに許可される。

1-1-3 文型3について

次の(17)は性質規程であり、

(17) 空が青い. / 空気が薄い. /
風が強い.

AガBイで表される。(1-1-1で述べたが)文型3
に現れる「空」「空気」「風」は具体的な世界に現
れる指示対象ではなく、「観点」であると言える。
そうすると、実際の表現においてXを欠いている
だけであって、状況において「Xハ」はあると
言っているかもしれない。つまり「(ここは)空
が青い」「(ここは)空気が薄い」「(ここは)風が
強い」などで、「ここは」は状況に依存している
とすることができる。ただし、

(18) ここの空が青い. /

この山の空気が薄い.

になると、「ここの空」「この山の空気」という特
定の対象が提示され、その属性が示される。この
場合は「どこの空が青い?」「何が薄いの?」な
どの問いに対する答えとして出現する「指定文」
の場合であり、これは文型というよりも語用論的
な状況下での現れとした方がいいだろう。

また評価も性質規程と同様である。

(19) 景色がいい. /ハンバーグがうまい.

/気持ちがいい.

はいずれもAは観点を表しており、これも主題X
は状況に依存していると言える。また、

(20) ここの景色がいい. / このハンバーグ
がうまい. / 今の気持ちがいい.

は、性質規程と同様、「指定文」と言えるだろう。
状態叙述の場合は、

(21) お腹が痛い。／ 足がかゆい。

(22) 心が苦しい。／ 気持ちが重い。

などのように、そもそも状態形容詞が「私」の感覚、感情の状態について述べる時、感覚、感情の持ち主である「私」は顕在化しないことが多く、それによって文型3になっていることが多い。これもまた語用論的状况下での表現の形と云っていいだろう。

1-2 イ落ち型形容詞文の文型

イ落ち型形容詞文は、形容詞文であるために、1-1で述べた4つの文型に対応する。以下は(23)が文型1、(24)が文型2-1、(25)が文型2-2、(26)が文型3に対応する。

(23) 性質規程：

この壁、しろ！（白い）／

これ、かた！（硬い）

状態叙述：

*ぼく、いた！（痛い）／

私、さびし！（寂しい）

評価：

これ、うま！（うまい）／

これ、やば！（やばい）

(24) 性質規程：

*ロープ、長さ、なが！（長い）／

*あいつ、高さ、高！（高い）

状態叙述：

*ぼく、痛さ、いた！（痛い）／

*私、かゆさ、かゆ！（かゆい）

評価：

*この水、うまさ、うま！（うまい）／

*これ、やばさ、やば！（やばい）

(25) 性質規程：

象、鼻、なが！（長い）／

あいつ、背、高！（高い）

状態叙述：

*ぼく、腹、いた！（痛い）／

*私、足、かゆ！（かゆい）

評価：

ここ、水、うま！（うまい）／

これ、味、やば！（やばい）

(26) 性質規程：

空、あお！（青い）／

鼻、なが！（長い）

状態叙述：

腹、いた！（痛い）／

足、かゆ！（かゆい）

評価：

空気、うま！（うまい）／

味、やば！（やばい）

形容詞文は、主題解説構造を持つとした。イ落ち型形容詞文は、形容詞文ながら主題Xについて述定するという表現性を持たず、感嘆文的な性質を有する表出型である。そのためXを持たない次のような例が多い。

(27) 性質規程：

なが！（長い）／ あお！（青い）／

たか！（高い）

状態叙述：

かなし！（悲しい）／ いた！（痛い）

評価：

うま！（うまい）／ やば！（やばい）

そのため、このタイプの表現形態をイ落ち型形容詞文の基本的な文型としてよく、イ落ち型形容詞文では、このタイプを文型1とする。それに伴って、形容詞文の文型タイプと対応した言い方を(23)～(26)までに充てたが、それも変更することにする。

以上のことからイ落ち型形容詞文の文型を次のように整理する。

(28) イ落ち型形容詞文の文型：

文型1：B！

文型2：X、B！

文型3-1：X、A（観点）、B！

文型3-2：X、A（対象）、B！

文型4：A、B！

ここに表記として「、」をそれぞれの間に入れたが、実際の表現においては常に一定の明確なポー

ズが観察されない場合もあり、あくまで構造を形式的に書いたに過ぎない。

なお、Xを提示する場合もあるが、その場合には提題の助詞「ハ」は現れない（(23)～(25)参照）³。

2 語幹1音節形容詞の文型

2-1 語幹1音節形容詞による形容詞文の文型について

形容詞の中に、語幹が1音節のものがいくつかある⁴。

(29) 濃い・酸い⁵・いい・よい・ない

このうち「濃い」「酸い」は性質規程にかかわる形容詞で、性質規程にかかわる他の形容詞と（語幹が1音節であるといった）形態的な異なりがある以外は、形容詞文に現れる上での統語上の異なりはない。

- (30) a 文型1：この味噌汁は濃い。／
このブドウは酸い。
b 文型2-1：この味噌汁は味が濃い。／
このブドウは味が酸い。
c 文型2-2：この店は味噌汁が濃い。／
今年の秋はブドウが酸い。
d 文型3：味が濃い。／
ブドウが酸い。

それに対して「いい」「よい」と「ない」は少し現れ方が異なる。

「いい」「よい」は評価にかかわる形容詞で、

- (31) a 文型1：
山の空気は {いい・よい}。
b 文型2-1：
「いい」も「よい」も現れない
c 文型2-2：
山は空気が {いい・よい}。
d 文型3：
空気が {いい・よい}。

に見られるように、文型1、文型2-2、文型3では許可されるが、文型2-1では許可されない。それは「いい」という評価に関わるような形容詞の

場合、そもそも「いい」の「観点」があるとはいにくい（あるとしても「よさ」が「いい」などというナンセンスな指摘になってしまう）ことによるだろう。もちろん、その「いい」の「評価主体」（=対象）を明示することは（31）の文型2-2のように普通にある。

「ない」は（状態叙述として）「非存在」を示すため、（存在を前提とした）性質規程と評価の「いい」とは違う振る舞いをする。

- (32) a 文型1：「ない」は許可されない。
b 文型2-1：「ない」は許可されない。
c 文型2-2：我が家は車庫がない。
d 文型3：お金がない。

「ない」は「存在しない」ということを示すということから、文型1は基本的にはあり得ない⁶。また「いい」と同様に、文型2-1についても、あり得ない。

2-2 イ落ち型形容詞文での文型

富樫（2006）が語幹1音節形容詞はイ落ち型形容詞文には現れないと述べているが、近藤（2014）ではそれがあるとしたことを0において述べた。しかしそうは言うものの、近藤（2014）でも、「こ！（濃い）」や「カッコよ！（よい）」があることくらいの指摘をしたに過ぎない。ここでは語幹1音節形容詞すべてを対象として、1-2で見たイ落ち型形容詞文の文型に即して、観察してみる⁷。

語幹1音節形容詞の場合、（28）で整理した文型にどう現れるかについて見てみよう。

文型1については、

- (33) a こ！／ b す！／
*c い！／ *d よ！／
*e な！

に見られるように、「濃い」「酸い」は許可される⁸が、「いい」「よい」「ない」は許可されない。文型1がイ落ち型形容詞文の典型であるということ述べたのであるが、これまでのイ落ち型形容詞文の考察が文型1を対象になされてきたという

背景から、この文型で「いい」「よい」「ない」が許可されないことが、「語幹1音節形容詞はイ落ちに現れない」と報告されてきたと言っても過言ではないだろう。

文型2については、

(34) a (ハイボールを飲んで)

これ、こ!

b (梅干を食べて) これ、す!

*c ここ、い!

d 彼の顔、よ!

*e あれ、な!

に見られるように、「濃い」「酸い」「よい」については許可されるが、「いい」は許可されない。ちなみに、「ない」については、そもそもこの型に対応する形容詞文の文型に許可されないし、それに対応するイ落ち型形容詞文の文型2には許可されない。

文型3-1については、

(35) a 味噌汁、味、こ!

?b 梅干し、味、す!

のように「濃い」は頻出するが、「酸い」についてはほとんど見られない。もちろん「酸っぱい」なら「味、すっぱ!」のように多く見られることから、意味的な側面が許可を決定しているわけではないと言えるだろう。また、「いい」「よい」「ない」はこの文型には許可されない。

文型3-2については、

(36) a このラーメン、スープ、こ!

b このサンラータン麺、スープ、す!

c あいつ、顔、よ!

*d あいつ、顔、い!

e これ、意味、な!

に見られるように、「いい」以外は許可される。ただし、「ない」については、常に許可されるわけではなく、「意味がない」「興味がない」「関係がない」など許可されるものには限りはある。

文型4については、

(37) a 汁、こ!

b レモン、す!

c 顔、よ! / *d 顔、い!

e かっこ、よ! / *f かっこ、い!

g 意味、な!

に見られるように、「いい」以外はすべて許可される。

2-3 整理

2-2で語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文での現れを記述した。

(38) ①「濃い」「酸い」は性質規程にかかわる他の形容詞同様の現れ方をする。

②「いい」はイ落ち型形容詞文では許可されない。

③「よい」は文型2、文型3-2、文型4において許可される。

④「ない」は文型3-2、文型4において許可される。

これまで何度か述べてきたことであるが、(38)で指摘した現象は、意味の側面と形態の側面から生じる現象であると整理できる。たとえば、「ない」が「非存在」ということを意味することから文型2と文型3-1において許可されないということと、「ない」「よい」「いい」は「*なさがいい」「*よさがよい」「*いさがいい」がなく、それぞれ観点を持たないことから文型3-1において許可されないというのは意味的な側面から生じる現象である。これらはイ落ち型形容詞文であるということから生じる現象ではなく、それぞれの形容詞と形容詞文の関係の中で生じる現象であると言えるだろう。

それに対して、イ落ち型であるために現れが制限される現象もある。それは文型1での現れの問題である。これは形態的な側面に依拠する。形態的な側面としては、語幹1音節形容詞は、それぞれがイ落ち型になったとき、「こ!」「す!」「い!」「よ!」「な!」になるということである。この時「こ!」と「す!」は衝突する他の語詞はなく、語用論的な状況から、それが「濃い」「酸い」に還元できる可能性が高い。それに対して

「よ!」「な!」については、それぞれ感動詞との衝突があり得ることになる。呼びかけるに際して現れる「よ!」や、押しつけるに際して現れる「な!」などである。ただし「い!」はそうした衝突はない。その点で「い!」が許可されない理由は现阶段でははっきりしない。その理由については今後の課題としたい。こうした感動詞との衝突の側面から、「いい」「よい」「ない」は文型1での現れは回避されると言えるだろう。ただし、「いい」が文型2などにおいてイ落ち型形容詞文に現れるとすると、「A、い!」となり、これは「A-イ」という音の連続から、全体で（語幹+語尾イの）形容詞の形態と近似的になる。「いい」のイ落ちした形態「い」は形容詞の語尾「イ」と変わりがなくなり、そうしたことを回避されるために許可されないと言えるだろう。なお、「よい」と「ない」については節を変えてそれぞれ述べる。

3 「よい」のイ落ち型形容詞文について

「よい」はイ落ち型形容詞文に現れる。文型2では、

- (39) a *顔、よ!⁹
 b 木浪の顔よ笑笑¹⁰ (2022/9/1) /
 この信玄さんの父の顔よ
 (2022/8/25)

に見られるように、「顔」だけでは許可されず、その「木浪の顔」「この信玄さんの父の顔」といったように、具体的な「顔」が主題として取り上げられる条件の下では許可される。ちなみにこの条件の下では、

- (40) 彼の顔と声よ!

というように、「顔と声」というように等位接続がなされている要素もAに立つことができる。

文型3-2では、今まで

- (41) a 本村弁護士カッコよ! (2022/9/2)
 b 今イベの咲希ちゃんカッコよ…美し
 (2022/9/2)

のような「カッコ (恰好)、よ!」の事例だけを

あげてきた¹¹が、「味、よ!」「気分、よ!」「気持ち、よ!」「都合、よ!」「色味、よ!」などいろいろと事例は採集できる。たとえば、「味、よ!」では、

- (42) a 爽、梨味よ! (2021/6/15)
 b そろそろ看護師さんが朝食のお盆を
 下げに来るタイミングで視聴するデ
 パプリ味よ (2022/8/21)

というように、文型3-2での現れがある一方、それと同じく、

- (43) a 爽の梨味よ!
 b ~デパプリの味よ!

のように、XとAを連体によって連結し、全体で大きなXとして、文型2で表現する場合も多くみられる。

文型4での現れは、

- (44) 顔よ! / 声と顔よ! /
 カッコよ! / 味よ!

など、かなり多くの例が採集できる。

形容詞「よい」が文型1として単独で「よ!」として現れず、文型2、文型3-2、文型4において、必ず「A、ヨ!」という形で現れることは、富樫 (2006) が語幹1音節形容詞がイ落ち型形容詞文には現れないとしたことを否定することではない。これは、語構成上、「A、よ」であるが、「ヨ」が独立しているといった感じではなく、「Aヨ」となることで、「語幹1音節形容詞である」といった形態的性質が回避されているからであると言えるだろう。これまでのイ落ち型形容詞文の説明において文型1を主に考察対象としてきたこと、また形容詞を形容詞文の中で記述してこなかったことという2側面によって、語幹1音節形容詞が、文型2、文型3-2、文型4で現れるということが記述できなかったことの原因であると言える。

4 「ない」のイ落ち型形容詞文について

4-1 形容詞「ない」の場合

「ない」は文型3-2、文型4に現れるとした。2

で取りあげた例が「意味、な!」「興味、な!」だけであったが、「関係、な!」、「容赦、な!」、「価値、な!」「きり、な!（きりが無い）」¹²など、事例はいくらでも採集できる。これらに共通しているところは「よい」と同じで、「A、な!」となることで、「語幹1音節形容詞である」といった形態的性質が回避されているからであると言えるだろう。

こうしたことは、さらに

(45) しょうもな!

という、全体で語彙化されているような形態にも適用される。これもまた、語幹1音節形容詞の形態的性質の回避によって生じている例であると言えるだろう。

また、形容詞「ない」は、「危ない」が「危ねー」になるように、「ないよ」が「ねーよ」といったように母音融合によって/neR/となることがある。その形式においてイ落ち型形容詞文に現われことがある¹³。

(46) a あ、左の子が俺ね。なんも関係ね
(2022/10/1)

b でも酔ってるからそんなの関係ね
(2022/9/1)

(47) a 接待の席ならえ〜すごお〜いとかやんとか言うけどオフだと知らね、興味ねで終わってごめんって感じ
(2022/10/4)

b フォックス以外のキャラ興味ねっす
(2022/9/19)

4-2 否定辞「ない」への拡張

ここまで形容詞「ない」について取り上げて考察してきた。ところで次の例はどう説明すればいいだろうか。

(48) つまんな!・つまらな! /
くだらな! / やるせな!

これらは「ない」が語の中に含まれるが、その「ない」は形容詞ではなく、否定辞「ない」である。ただし「つまらない」「くだらない」「やるせ

ない」は、語構成上「つまる+ない」「くだる+ない」と分析できるかもしれないが、「つまる」「くだる」の肯定・否定の対立が存在しているわけではなく、「つまらない」「くだらない」で一語相当の語構成だと言っている。そうすると、この例は、全体で「つまらな+い」「くだらな+い」といった「形容詞」的な形態として認識され、そうなる語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文とは言えないだろう。これは、

(49) くそつまんな!

というような例からもわかるだろう。これは「くそ」という程度を表す語が「つままない」全体に前接している。つまり、「つままない」全体で一語と言っているであろう。

(49) のような例があるだけでなく、さらに明確な否定辞「ない」においても形容詞「ない」と同様に、イ落ち型の使用も検出できる。

(50) いらな! (いらない) /
わかんな! (わかんない)

これは「動詞未然形+否定辞「ない」という形態である。また、

(51) 面白くな! ・ おもんな! (面白くない)¹⁴ / 熱くな! /
うまくな! / 寂しくな!

などは「形容詞未然形+否定辞「ない」という形態である。ただし、「名詞+では+ない(じゃない)」の場合は許可されない。

(52) *これはぼくのじゃな! /
*これ犬じゃな! /
*これ北越谷の駅じゃな!

動詞、形容詞の述語文には否定辞が現れたとき、否定辞「ナイ」はイ落ち型になることが許可されるのに対して、名詞の述語文では否定辞がイ落ち型として許可されないのは、これまで説明してきたことを補完する。それは、否定辞「ない」が、否定する形態素に直接的に接続していなければならないということが観察されることから言える。名詞の場合は、「花じゃない」「テレビではない」のような形態であり、「花ない」「テレビない」と

いうように「名詞+否定辞「ない」という形態ではない。このことは、これまで語幹1音節形容詞がイ落ち型形容詞文の文型1に現れないとしたことと連続的である。それは「よい」「ない」が文型1には現れないが、Aヨ、Aナで現れるのは、その全体の形態によって1音節の語幹であることを回避するためであるとしたこととも連続する。名詞+否定辞「ナイ」は全体で一つの形態とならず、「な」は1音節として保存されることとなる。

なお、いくら動詞であっても、全ての「否定」の場合に、こうしたイ落ち型が許可されるわけではない。

(53) *読まな！ / *走らな！ /
*飛ばな！

それに対して、形容詞の場合はかなりの場合に許可される。

また先に述べた母音融合についても、否定辞「ない」の場合にも適用される。

(54) いらね！ / しょうもね！ /
つまんね！

に見られるように、否定辞「ない」も、形容詞「ない」同様に母音融合型のイ落ち型形容詞文は多く見られる。

5 まとめ

小論では、富樫（2006）以来、（近藤（2014）を除いて、）「ない」とされてきた、語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文について考察し、以下のことを明らかにした。

- ① 語幹1音節形容詞には、「濃い」「酸い」「よい」「いい」「ない」がある。形容詞文として、「濃い」「酸い」は性質規程にかかわり、「ない」は状態叙述にかかわり、「よい」「いい」は評価にかかわる。
- ② イ落ち型形容詞文には、文型1（「B！」）・文型2（「X、B！」）・文型3-1（「X、A（観点）、B！」）・文型3-2（「X、A（対象）、B！」）・文型4（「A、B！」）の5

つの文型がある。

- ③ 語幹1音節形容詞のイ落ち型形容詞文での現れは以下のとおり。

ア) 文型1では「濃い」「酸い」が許可される。

イ) 文型2では「濃い」「酸い」「よい」が許可される。

ウ) 文型3-1では「濃い」が許可される。

エ) 文型3-2では「濃い」「酸い」「ない」「よい」が許可される。

オ) 文型4では「濃い」「酸い」「ない」「よい」が許可される。

- ④ 性質規程にかかわる「濃い」「酸い」は性質規程にかかわる他の形容詞と同じく、イ落ち型形容詞文において許可される。また「いい」はイ落ち型形容詞文では許可されない。

- ⑤ 文型3-2、文型4は「A、B！」という形態を有し、この形態であることで「1音節の語幹であることを回避する」ことが生じ、それによって語幹1音節形容詞はイ落ち型形容詞文に現れることが許可される。

- ⑥ 「ない」がイ落ち型形容詞文において許可されることと、否定辞「ない」が「イ落ち型」をとることを許可されることとは連続的である。（なお、どちらがどちらに影響を与えたかは考察はしていない。）

おわりに

小論で指摘したことは、富樫（2006）以来の指摘を否定したことではない。これまで「ない」とされてきたのは、イ落ち型形容詞文について、文型1における観察が行われてきただけであったことによる。小論のようにイ落ちの形態を形容詞文といった視座で捕捉することによって観察が行われていれば、もしかすると富樫（2006）当時においても、それぞれの形容詞が許可されるということが指摘できたかもしれない。イ落ち型形容詞

文が具体的な音声表現の場において現れることが多い表現形態だけに、今となっては指摘のしようがない。また、文型1で許可される「濃い」「酸い」は、富樫(2006)当時においては許可されず、それ以後の時間経過の中で許可されるようになったのかもしれない。これについても指摘のしようがない。小論では、あくまで「2022年現在」において、語幹1音節形容詞の、イ落ち型形容詞文での現れの実態を記述したものである。

【参考文献】

- 飯豊毅一(1973)「形容詞・形容動詞の語幹・各活用形の用法」(『品詞別日本文法講座4 形容詞・形容動詞』pp.164-206 明治書院)
- 影山太郎編(2009)『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』大修館書店
- 近藤研至(2014)「『形容詞語基用法』について」(『日本語史の新視点と現代日本語』小林賢次・小林千草編 pp.136-150 勉誠出版)
- (2019)「形容詞述語文の表出用法」(『言語と文化』31号 pp.31-52 文教大学言語文化研究所)
- 今野弘章(2012)「イ落ち：形と意味のインターフェイスの観点から」(『言語研究 141』pp.5-31 日本言語学会)
- 笹井香(2005)「現代語の感動喚体句の構造と形式」(『日本文藝研究』57(2)：pp.1-21 関西学院大学日本文学会)
- 清水泰行(2015)「現代語の形容詞語幹感動文の構造 —「句的体言」の構造と「小節」の構造との対立を中心として—」(『言語研究』148 pp.123-141 日本言語学会)
- 新屋映子(2009)「形容詞述語と名詞述語—その近くて遠い関係」(『国文学 解釈と鑑賞』74-7 pp.30-40 ぎょうせい)
- 立石浩一(2012)「い落ち」表現を端緒とする言語学的諸問題」(『神戸女学院大学論集』59(2) pp.159-168)
- 富樫純一(2006)「形容詞語幹単独用法につい

て—その制約と心的手続き—」(『日本語学会2006年度春季大会予稿集』pp.165-172)

原田幸一(2013)「大学生の日常会話における形容詞語幹終止用法」(『言語社会』7 pp.341-327 一橋大学)

〈注〉

- 1 (1)のような表現形式について、「語幹のみによる独立用法」(飯豊(1973))、「形容詞語幹単独用法」(富樫(2006))、「形容詞語幹終止用法」(原田(2012))、「イ落ち表現」(立石(2012))、「形容詞語基用法」(近藤(2014))、「形容詞語幹型感動文」(清水(2015))と呼ばれ、その呼び名は安定していない。近藤(2019)は、(1)のような表現には、例えば「水っ**ぽい**」、「しょっ**ぱい**」を取り上げて、「みずっ**ぽ!**」、「しょっ**ぱ!**」といったものもあり、これらは、接尾辞の一部を、即ち語幹ではないところまでを「残して」おり、イのみが顕現しない形態であるところから(「語幹用法」などの呼び名ではなく、今野(2012)に倣って「イ落ち」と扱い)、形容詞文の「イ落ち型表出用法」と呼んだ。なお、近藤(2014)で説明したイ落ち型形容詞文の統語上の性質については今野と共通するところも多いが、今野の主眼は、この「構文」についてのみ向かい、それ以外の表現との比較などは行われていない。この点が、近藤(2014)・(2019)とは大きく異なる。
- 2 ここで形容詞を「Bイ」としたのは、イ落ち型形容詞文を表記することを射程に入れてのことである。小論では、イ落ちの形態を表記する時、「B」と表記する。ちなみにこの「B」は「形容詞からイをとった形」を示す。「B」を「語幹」としないのは、「賑わしい」や「水っ**ぽい**」などがイ落ちする際、「にぎわし!」、「みずっ**ぽ!**」のように、語幹以外の部分まで残ることを根拠とする。ただしイを含めて全体で2音節形容詞の場合はそうした例はないため、小

- 論では「語幹1音節形容詞」とした。
- 3 このあたりについては富樫（2006）、今野（2012）においても議論されているが、その指摘について近藤（2014）で否定した。特に今野は「イ落ち構文」を小節small clauseとして扱っているため、そこに「ハ」が現れることを認めることができなくなっている。例えば「ゾウ、鼻、なが！」については今野は「ゾウが鼻が長い」という構造を基底としているとしている。しかしこれは「ゾウは鼻が長い」であっても十分説明できる。
 - 4 以下の例以外でも、最近ではほとんど見かけない例に「初い」がある。
 - 5 「酸っぱい」の方が一般的で、「酸い」はそもそも使用例は多くはない。「酸いも甘いも」などの形で現れることが多い。もちろん、「これ、酸いよ」という用例もある。
 - 6 もちろん、「それはない。」といった表現はあるが、この場合の「ハ」は提題ではなく、対比である。
 - 7 なお、以下でイ落ち型形容詞文について事例を出していくが、そもそも表出型は書記言語ではないので、その用例採取がなかなか困難である。ただし、いくつかはTwitter上で検索をかけ採集した。それ以外は周りの発話の中から採取した。
 - 8 ただし、「酸い」については実際はそれほど出会えない。（「うわ、す！」というのをゼミ生にレモンを食べさせた時に、言ったのを聞いた。Twitterでは探せなかった。）ただし意味としては同じ「酸っぱい」が「すっぱ！」になる例は多数ある。
 - 9 ここでaを許可されないとしたのは、あくまで文型2として許可されないとしたことである。「(木浪、) 顔、よ！」という形で、文型3-2、文型4では許可される。
 - 10 小論で用例はTwitterの検索機能を使用して採集した。その場合はツイートされた年月日を記述した。
 - 11 「格好」については、「格好、よ」と書記される事例はない。ほぼ、「カッコよ」という形態で現れる。なお、「カッコよ」は一見コロケーションが定型化していると思えそうだが、ここで指摘した通り、事例はいくつも検出されることから、小論では「カッコよ」はコロケーションとは扱わない。
 - 12 「切な！」も事例としてはしばしば見かける。しかしこれは語構成上は「切+ない」であるだろうが、それだと否定辞ではなく形容詞「ない」になる。しかし、「切な+い」であるという可能性もないわけではない。このあたりの扱いが少し問題で、今回は扱わないことにする。
 - 13 「関係ね」「興味ね」はほとんどの場合が「関係ねえ」「興味ねえ」であり、わずかに「関係ね」「興味ね」の例があった。「意味ない」も同じく「意味ねえ」は頻出するが、「意味ね」は「～という意味ね」のように終助詞ネの場合しか見られなかった。
 - 14 「懐かしおもんな！」（「アメトーク」テレビ朝日2022/9/8放送）という、全体で「複合語」（の新造語）という事例も見られる。また「くそおもんな！」もある。これも否定辞として、さらに「ない」ではなく、もう全体で語彙化されていると言っていいのかもしれない。

